

県営中山間地域総合整備事業 黒羽地区（平成19年3月完成）

資料6-②

1. 事業概要

本地区は大田原市（旧黒羽町）の東部山間地域に位置し、豊かな自然環境があるものの、農業生産基盤及び農村生活基盤の整備が未整備で平地に比べて不利な条件にあるため、以下の整備を行いました。

- ◆ 事業名：県営中山間地域総合整備事業
- ◆ 事業箇所：大田原市（旧黒羽町）
- ◆ 受益者数：283戸
- ◆ 主要工事：農業生産基盤整備
ほ場整備 86ha（12地区）、農業用排水路整備 4.2km（4地区）
農村生活環境整備
農業集落道 3.2km（1地区）、活性化施設 1カ所
- ◆ 総事業費：19.0億円
- ◆ 事業期間：平成10年度～平成18年度
- ◆ 事業主体：栃木県
- ◆ 受益面積：104.2ha



2. 事業の目的

本地区は農業用水路やほ場が未整備であることに加え、後継者不足や、遊休農地が増加して地域の荒廃が進行している状況であった。

このため、農業生産基盤、農村生活環境基盤を総合的に行い、営農の効率化・地域の活性化及び農村環境の改善を図っていく。

3. 事業の整備効果等

【事業費等の変化】

- ① 受益面積
土地利用の変化を踏まえ、104.2haに係る農業生産基盤を整備した。
139.0ha（採択時）→ 104.2ha（完成時）
- ② 総事業費
圃場整備及び道路計画の見直し（1路線の減）に伴い、総事業費が減となった。
20.0億円（採択時）→ 19.0億円（完成時）

【営農の効率化】

- ① 労働時間の短縮
農地の区画拡大等により作業の効率化が図られ、ほ場整備実施地区では水稻にかかる労働時間が約30%短縮された。
〔労働時間の変化〕（圃場整備事業組合から聞き取り）
水稻：37.6hr/10a（整備前）→ 26.3hr/10a（整備後）30%減少
- ② 維持管理の節減
ほ場等の整備により管理労力の軽減がなされ、維持管理にかかる経費が、ほ場整備実施地区では30%節減された。
〔維持管理費の変化〕（圃場整備事業組合から聞き取り）
ほ場：14.8百万円/年（整備前）→ 10.4百万円/年（整備後）30%減少
- ③ 耕地利用率の向上
ほ場整備実施地区では、用水の安定供給や排水改良、耕作放棄地の解消等が図られたことで、作物栽培条件が改善され、耕地利用率が約22%向上した。
また、ほ場への大型機械の導入が可能となり、効率的な農業経営が図られた。
〔耕地利用率〕（現地作付状況調査より）
65.8%（整備前）→ 87.9%（整備後）



④ 適切な水管理

農業用水路整備により、水管理の改善、排水不良の解消が図られた。



農業用排水施設（整備後）

⑤ 利便性の向上

集落道整備により、狭い幅員・急勾配や未舗装などの条件が解消、地域住民の利便性が大幅に向上した。



農業集落道（整備後）

【地域の活性化】

・地域の活性化

活性化施設の整備により、地域活性化活動の拠点となっている。

〔施設利用率の変化〕（大田原市役所から聞き取り）

71%（H18）→ 80%（H22）

※当初計画利用人口を100%とした場合

活性化施設

地元食材による料理教室（上）蕎麦打ち教室（下）



・須賀川地区では企業と地域が連携して、農地の再生や特産品の復活に取り組んでいる。

【農村環境の改善】

・農業生産基盤の整備、特にほ場整備の実施により、地区では耕作放棄地の発生が抑制されている。また、排水路整備により、野生イノシシの山林部からの進入を防止している。さらに、ほ場整備で用地を創出した河川、県道の整備により農村環境の快適性が確保された。

4. 事業により整備された施設の管理状況

- ・ほ場、農業用排水施設は地域受益者により適切に管理されている。
- ・集落道、活性化施設は、大田原市と地域受益者により適切に管理されている。

5. 事業実施による環境の変化

特になし

6. 社会経済情勢の変化

特になし

7. 地域住民からの声（代表事例）

○ 農家

- ・農作業時間及び維持管理費が整備前と比較して約3割減った。
- ・水稻栽培の余剰労力でナスを栽培している。（JA出荷）売り上げは米よりもはるかに多い。
- ・耕作放棄地は昔とあまり変わらないと思うが、事業をやらなければもっと増えていた。
- ・米の収量も整備前は7俵であったが現在は8俵くらい取れるようになった。
- ・暗渠排水も実施したが、排水不良で麦や大豆の転作には向いていない。
- ・現況道路はトラクタの入れず、他人の田んぼを借りて入っていたが、今は気兼ねなく自分の田んぼに入れる。
- ・現況も河川から取水していたが、水不足で苦労していた。事業実施後はコンクリート水路になったため、効率的に使えるようになった。
- ・当時は圃場整備に反対した方もいたが、今はみんながやって良かったと考えている。
- ・県道改良工事の測量を事前に実施してもらい、農地のつぶれ地を確定させ圃場整備事業を実施したため、区画が悪くならなかった。
- ・自分の家は息子が農業を継いでいるが、後継者を心配している農家もいる。

○ 非農家

- ・蛙や魚についてはやはり整備前と比較して減少していると思う。

8. 今後の課題等

- ・今後は、整備された農業生産基盤および生活環境基盤をさらに活用して、中山間地域の特徴を活かした農産物の特産化を推進するとともに、販路の拡大を図っていく必要がある。
- ・また、地域の更なる活性化を図るため、活性化施設を拠点として、地域コミュニティの醸成、及び都市住民との交流を促進する必要がある。

栃木県農政部農村振興課

TEL : 028-623-2334 FAX : 028-623-2337

HP : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>

E-mail : noson-sinko@pref.tochigi.lg.jp

